

プログラム番号	06016
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	国立大学法人東京外国語大学大学院地域文化研究科		
②学長名	池 端 雪 浦		
③所在地	〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	学務部留学生課・留学生教育係長	
	担当者氏名	梅 山 敏 行	e-mailアドレス ryugakuseika@tufs.ac.jp
	電話・FAX番号	042-330-5184・042-330-5189	
⑤ホームページ URL	<a href="http://www.tufs.ac.jp/common/pg/pcs/">http://www.tufs.ac.jp/common/pg/pcs/</a>		
⑥大学院在学留学生数	203人(うち、国費留学生 32人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	平和構築・紛争予防修士英語プログラム		
②プログラムの形態	博士前期課程 (2年間)		
③実施研究科・専攻	地域文化研究科 国際協力専攻		
	(所在地) 東京都府中市朝日町3-11-1		
④連携大学・研究科・専攻名			
⑤受入れ学生数	8 人(うち研究留学生優先配置人数: 6 人) (うち日本人学生数: 0-2 人)		
⑥担当教員数	合計 18 人(うち専任: 3人、兼任: 9 人、非常勤: 6 人)		
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 地域文化研究科 教授		
	研究科長名 和田 忠彦		

### 【3. プログラムの内容】

冷戦後、世界各地で地域紛争が頻発し、多くの犠牲と被害が生まれています。日本と関係の深い中東・中央アジア・東南アジアでも紛争が発生しています。2004年4月、本プログラムは外国人留学生を対象とする英語プログラムとして、人材育成を通じて世界平和に寄与しようと開設されました。以来、世界22カ国からの留学生が入学し、国や宗教、地域を超えた学生間の交流が生まれています。特に紛争地出身の学生らの体験・視点が、他学生に大きな影響を与える一方、紛争地出身の学生自身も他学生との議論を通じて、新たな視点で自分の国・地域を見つめる機会を獲得しています。



#### <使用言語>

すべての講義と演習指導は英語で行われ、修士論文も英語で執筆します。これは紛争を抱える地域からの留学生にも研究の機会を与えるためだけではなく、将来的にこの分野で活躍するためには、英語が不可欠である点を考慮したものです。ただし、日本語教育の授業も用意し、卒業後、日本の政府機関、援助組織とも日本語でコミュニケーションを取れるようになることを目指しています。

#### <カリキュラムの特長>

本プログラムの中核を成すのが、必修の「PCS演習Ⅰ～Ⅳ」です。加えて選択科目として「PCS研究方法論」「平和研究」「国際関係論」「国際法・国際協力」「平和構築」「危機管理」「グローバル・スタディーズ」「地域の平和と紛争」などがあります。

PCS演習では、学生がこれまでの研究・教育・実践蓄積をおさえつつ、独自の見方を育んでいくための討議の場を設けています。選択科目では、本学の特徴である地域研究のアプローチで各地域の紛争や平和の課題について深く学ぶことが可能ですが、これをばらばらに勉強するだけでは現代世界の特質や共通の課題が見えづらいことも事実です。そのためPCS演習では、チーム・ティーチング制を採用し、複数の教員が学生と一緒に議論しながら授業をすすめていきます。

3時間集中講座としてのPCS演習は、半期ごとに構成され、まず初年度前期の演習Ⅰは、紛争分析に対する基本姿勢、ならびに平和構築全般のオリエンテーションに充てられます。また、ここには、文化的・教育的背景の異なる学生が、大学院での研究に適応できるようにするための授業も含まれます。

初年度後期には、演習IIとして、受講生は各自、紛争中もしくは復興中にあるケース国・地域を特定し、それぞれに紛争の原因とその政治・社会的環境の分析を試みます。その分析に基づき、紛争予防、紛争の終結、そして平和構築を実現するための具体的なアクションについて考える機会を提供し、2年度に備えます。



2年目は、修士論文の完成に向けて、具体的な計画に進みます。前期の演習IIIでは、各自の研究テーマに応じ、より実践面を重視したい学生は短期インターンシップを、研究面を重視したい学生は現地リサーチを行えるよう、指導します。後期は、演習IVにて修士論文執筆に向けた指導となります。

また本学のカリキュラムをより充実したものとするため、国連大学および国際基督教大学と単位互換協定を結んでいます。これらの大学での授業を履修し、本学の所要単位に換算することができます。

#### <修了後の進路>

平成18年3月にはじめての修了生を送り出しましたが、修了者7名のうち、3名は本学大学院地域文化研究科地域文化専攻の博士後期課程に進み、さらに研究を重ねています。母国に帰国した2名のうち1名は母国キルギス共和国のUNAIDS（国連エイズ

合同計画）でプログラム・オフィサーとして活躍しています。修了予定者の多くは、母国に帰国し、平和学の研究者として、もしくは国際機関において平和の実務作業に携わることを希望しています。将来的には同窓会組織を充実させることにより、世界的なネットワークの形成を目指します。修了者同士が研究や実務体験を共有することにより、このネットワークは本学の財産として、カリキュラムの向上のみならず、世界各国・諸地域の平和構築・紛争予防に役立つことが大いに期待されています。

#### <多彩な活動>

2005年、2006年度にはPCSインターン助成金制度を利用し、学生たちが主に夏休みを利用して短期インターンを経験してきました。修了後に国際機関で働くことを希望している学生たちにとっては不可欠な経験です。実際、紛争予防・平和活動の最前線に身を置くことにより、新たな視点で研究テーマと向き合うことができるようになり、本プログラムの集大成ともいえる修士論文にも、その成果は十分に発揮されています。

また、世界の現実に接する機会を増やすために、本プログラムでは世界および国内各地から研究者、活動家の方々をお招きし、講演、ワークショップ、シンポジウムなどを頻繁に開催しています。これらに参加することで、学生たちは世界の実情や現場の課題に迫ることができます。

#### <アドミッション>

本プログラムには世界各国から受験生が集まるため、書類審査を基本としつつ、面接（電話を含む）などによる補助的判断材料をもとに審査を行うアドミッション・オフィス方式を採用しています。

毎年7月： 本プログラムのHPにて出願要項発表

9月－10月： 出願期間

11月中旬： 合格発表（HP上で行う）

本プログラムの詳細についてはPCS Web Site <http://www.tufs.ac.jp/common/pg/pcs/>をご参照ください。